

# 松戸市教育委員会会議録

平成24年9月定例会

# 松戸市教育委員会会議録

平成24年9月定例

開 会	平成24年8月29日(水) 14時00分	閉 会	平成24年8月29日(水) 15時20分	
署名委員	委員長 關 英 昭	委 員	山 田 達 郎	
出席委員 氏 名	委員長 關 英 昭	○	委 員 八 田 賢 明	○
	委員長職務代理者 川村 絹 慧	○	委 員 山 田 達 郎	○
	委 員 瀧 田 泰 子	○	教育長 山 根 恭 平	○
出席職員	内訳別紙のとおり			

提出議案	内訳別紙のとおり
特記事項	

# 教育委員会事務局出席職員一覧表

平成 24 年 9 月定例教育委員会

No.	部課名 及び 職名	氏 名	No.	部課名 及び 職名	氏 名
1	生涯学習本部長	柳 説子	21	教育総務課主任主事	橋本 欣之
2	学校教育担当部長	遠藤 雅彦	22		
3	企画管理室長	平林 大介	23		
4	〃 参事補	山口 明	24		
5	〃 専門監	高橋 昌之	25		
6	〃 室長補佐	堀内 文江	26		
7	〃 主査	小宮 光生	27		
8	〃 主任主事	藤中 孝一	28		
9	スポーツ課長	須佐 賢一	29		
10	〃 補佐	梶野 勝彦	30		
11	〃 主査	飯島 和彦	31		
12	社会教育課長	櫻井 茂	32		
13	〃 補佐	向後 文大	33		
14	〃 主幹	小野寺 くみ子	34		
15	戸定歴史館長	田岡 恵子	35		
16	〃 補佐	斉藤 洋一	36		
17	博物館次長	松本 繁幸	37		
18	〃 館長補佐	諸角 滋章	38		
19	〃 主事	小林 孝秀	39		
20	教育総務課長	池上 誠一	40		

## 平成24年9月定例教育委員会会議次第

1 日 時 平成24年8月29日（水） 午後2時00分

2 場 所 教育委員会5階会議室

### 3 議 題

#### (1) 議 案

##### ① 議案第48号

松戸市スポーツ推進委員の委嘱について (スポーツ課)

#### (2) 報告等

##### ① 第64回松戸市文化祭について

(社会教育課)

##### ② 松戸市戸定歴史館企画展「徳川昭武のヨーロッパ体験」 について

(戸定歴史館)

##### ③ 松戸市立博物館企画展「東日本の古墳と渡来文化」につ いて

(博物館)

### 4 その他

---

◎会議録署名委員の指名

**委員長** 開会に当たり、本日の会議録署名人を山田委員にお願いします。

---

◎議案の提出

**委員長** 日程に従い議事を進めます。

本日の議題は、議案1件、報告3件、その他となっております。

---

◎議案第48号

**委員長** 初めに、議案第48号「松戸市スポーツ推進委員の委嘱について」を議題といたします。  
ご説明願います。

スポーツ課長、どうぞ。

**スポーツ課長** 議案第48号「松戸市スポーツ推進委員の委嘱について」ご説明いたします。

本件は、スポーツ推進委員が不足・欠員している地区に新委員を委嘱するためご提案いたすものでございます。

今回は、常盤平地区から推薦がございました折原千歳さんでございます。

年齢は50歳で、指導できるスポーツはバドミントンとのことでございます。

2ページ目が、地区別集計表となっております。

前回、7月5日の教育委員会会議におきまして、2名の方の追加承認をいただきましたので、今回、ご承認いただければ、合計で108名となり、平均年齢は59.2歳になります。

また、常盤平地区は、7月の教育委員会会議におきまして、1名追加承認いただきまして、推薦依頼人数が16名ですので、あと2名の枠がございます。

なお、各地区より追加推薦があった場合には、随時委嘱する予定でございます。

説明は以上でございます。

**委員長** 議案第48号につきましては、ただいまのご説明のとおりです。

これより質疑及び討論に入ります。

**山田委員** 新しく折原さんになっていただけるというご報告ということで、大変喜ばしいこと

で、主にどういったスポーツの指導をなさるご経験があるのか。

**スポーツ課長** 指導できるスポーツにつきましてはバドミントンです。

**山田委員** そのバドミントンを指導なさるような機会が、このスポーツ指導員の方、推進委員の方がおありになるんですかね。

**スポーツ課長** その地区によって、推進委員さんが、教室等、いろいろやられていまして、その中で、例えば、その地区でバドミントンをやっているクラブ、そういったのがあったときに、教室を指導したり、実際、教室をやっております。

**山田委員** 実際、常盤平ではやっていらっしゃるのですか。

**スポーツ課長** はい、常盤平でやっています。

**山田委員** やっていらっしゃるのですね。活躍できる場がどれぐらいあるのかなと思いましたので。

**スポーツ課長** 特技の中にはソフトボールというのもございます。

**山田委員** そうですか。

**委員長** 山田委員の最初の質問の趣旨は、この方はこれまでにどれだけの経験があるのかということだと思えますが。

**山田委員** ええ、それと、それが発揮される場が、どれぐらいマッチするのかなというところが。

**スポーツ課長** 推薦状の中には、今までの経験年数ですとか、それがうたっていなかったもので、それについてはお聞きするようにいたします。

**山田委員** ありがとうございます。

見ますと、まだ要請人数、推薦依頼人数に大きく開きのある地区もあるようでございまして、それぞれの地区のスポーツの事情が違うと思うんですが、引き続き積極的なご推薦がありますよう、働きかけをお願いいたします。

**瀧田委員** 折原さんに途中からでも入っていただいてよかったと思います。

スポーツ推進委員というのは、前の体育指導委員ですが、いずれにしても指導的な立場で、市民のスポーツを指導するという立場だと思います。

社会体育の指導的な立場にいる大きな組織として体協がありますが、体協とスポーツ推進委員さんとのコミュニケーションというか交流はかなり濃くなっているのでしょうか、それともスポーツ推進委員はスポーツ推進委員の事業をやり、体育協会は体育協会のことをやると、どちらかという、昔は少し分かれていたんですけれども、今は、どうですか、少しそ

うというのが融合してくるようになりましたか。

**スポーツ課長** 体協につきましては、各所属しているスポーツの団体あるいはソフトスポーツの関係の団体の集合体といたしますか、そのような形で、スポーツ推進委員は推進委員で、これは、公務員と同じような形、準公務員という形で動いてもらっているわけなんですけれども、今のところ、体協とスポーツ推進委員が合同で何か企画してやろうとか、そういうものは、今のところは見えておりません。

ただし、毎年、恒例でやっております七草マラソン、そのときは、体協、スポーツ推進委員が一体となって協力していただいております。

**瀧田委員** ありがとうございます。マスタープランの総合型スポーツクラブというのになると、やっぱり体協と、それからスポーツ推進委員というのがリーダーシップをとりながら推進していくんじゃないかなと思いますので、なるべく交流を密にさせていただく必要があると、私は常々思っているんですけれども、そんなことで伺ってみました。

総合型スポーツクラブを地域で立ち上げようとする、やっぱり体協の専門部の人たちの力をかりなければできないでしょうし、スポーツ推進委員は、地域の中で広く呼びかけるとか、運営することになるんじゃないかと思うものですから。一つの事業がそういうところで少しずつ実現されていくのかなと期待しているところです。

すみません、意見です。

**委員長** 今、瀧田委員がおっしゃったことは、時々話題になることですので確認させていただきます。スポーツ振興法からスポーツ基本法に変わったときに、スポーツ基本法の前文にある、スポーツは、人類の財産であるという文章にいたく感銘を受けました。したがって、その精神を松戸市でも大事にしたいと、したがってそのスポーツの推進委員をお願いする場合にも、あるいは地域のスポーツの活性化のためにも、この精神をいかにして推進委員の皆さんに浸透させていくか、ということは何回も議論しました。瀧田委員は、今、それを松戸市の体育協会と連携してやる必要があると、したがって体育協会の皆さんにも、このスポーツ基本法の精神をやはりしっかりと伝え、ないしは理解していただいて、スポーツ推進委員の皆さんと一体となって松戸市のスポーツを推進していただきたいという趣旨で発言されたと思うんですね。

これから、日本のスポーツ活動というのはどうなるかわかりませんが、やっぱり地域型のスポーツというのにだんだんシフトしていくと思います。その際に、市はどのようなスタンスで松戸市のスポーツを考えていくかというのは、やっぱりスポーツ基本法に基づいて進めて

いくのが一番いいんだろうと思います。そういう意味では、力のある体育協会の皆さんにも一緒になってやっていただきたいというのが瀧田委員の願いだと思いますので、その辺を確認させていただきます。

**山田委員** 絡んで、体育協会と市の関係は、特別に指導関係にあるんですか。

**スポーツ課長** 市と体育協会、これは、昭和20年代に体育協会発足がするときに、行政のほうから、要請というのでできたというような形になっております。

今、現在、体育協会のほうに指導の関係といいますと、各行事とか国際交流、そういったいろいろな面で、うちのほうから補助金を出して、それで活動していただいているということもあります。

ですから、実際、今、運動公園の中に体育協会の事務所があるわけなんですけれども、先ほどの委員長のお話とも重なるところが出てくるとは思うんですけれども、スポーツ推進委員と体協のかかわりをというようにあったんですけれども、それにつきましても、体育協会のほうにも市のほうで補助を出したり、また、スポーツ指導者バンクというのがありまして、そこから各専門の指導者がいて、今は、主に学校、中学校の部活とかで、指導者がいないところに派遣しているというような形になっております。あるいはスポーツ推進委員さん、これから企画していこうとする、例えば新たなスポーツ、そのようなときに、指導者がいないよといったときにも、その指導者バンクから派遣できるというようなシステムになっております。ですから先ほど言われましたように、体協とスポーツ推進委員と、お互いの話し合いの場を持って、そういったものを有効に使えば、各地区でやるスポーツ教室とかにも指導員さんを派遣したりすることができるので、そのようなことについては、教育委員会で話があったということ体を協のほうに伝えたいと思います。

**山田委員** すみません、横やりを入れちゃって。

**瀧田委員** いえいえ、いいですか。

フェンシングが、この夏の、オリンピックで大変な人気が出たと思うんですね。それで、2010年、国体があったとき、松戸市がフェンシングの会場になりました。まだあのときに、何となくマイナーなスポーツだということで、会場入口、人口的にも、まだそうたくさん来ないだろうと予測されていた感じがあったんですけれども、実はあのときはもう大分、人気が出ていたんですね。

今回、またすごくフェンシングに対する関心が強くなったので、せっかく松戸が、あのときに、国体の会場だった割合にしては、何となくフェンシングが市民の中にばっと広がらな



いままきているなどというのが、私にとっては残念だというような思いもあるんですよ。

そういうのは、フェンシング協会のほうに働きかけて子供たちのための場をたくさん提供するようなことを依頼するとか、そういう仕向けるとか、そういうことはあっても、私はいいんじゃないかなというふうにつくづく思うんですが。なかなか、お金のかかるスポーツですし、大変だとは思いますが、フェンシングに対する関心が高くなっている今、機を見たら、なるべくそのものを市民に広げるというのが大事なんじゃないかと私は思います。

**スポーツ課長** 今、瀧田委員が言われましたフェンシング、千葉国体の折の会場になったということで、今年度は、県民大会の会場が松戸の運動公園で行うことになっております。

**瀧田委員** それは、フェンシングですか。

**スポーツ課長** フェンシングです。フェンシング競技については、松戸市体育協会の中にフェンシング協会があるわけなんですけれども、もともと全国的にも松戸というのはフェンシングの強いところでありまして、県立松戸高校が、特にいつもインターハイとかで優勝したり、出身者が、女性の方です。

**瀧田委員** 東山さんですか。

**スポーツ課長** オリンピックに行かれた方もいらっしゃるわけなんです。ただ、今、言われていますように、低迷しているのかなというようなことが見受けられるんですけれども、協会のほうにも、市役所にも人間がおりますので、働きかけて頑張ってもらうように言っておきます。

**瀧田委員** なるべく小さい時からできれば良いですね。人気のあるスポーツというのを上手に育てていくと、特色のある松戸市のスポーツというふうになるんじゃないかなと思うものですから。これは余談になったかもしれませんがよろしく。

**八田委員** 推薦依頼人数、このところの推薦する男女の比というものは、一応、決めているものですか。というのは、余りにも男性と女性との差があるところが、本庁とか、それから小金とかがございますよね。何かそういうような一応の決めというものはあるんですか。

**スポーツ課長** そういう決めはございません。

**八田委員** そうですか。

**スポーツ課長** ですが、やっぱり地区によっては、スポーツによって、女性の指導員が必要なところについては、女性がある程度いて、そのようなスポーツがないところについては、男性が多いというような形になっています。

**委員長** それでは、議案第48号についての質疑及び討論を終結し、採決してよろしいですか。

(「はい」の声あり)

**委員長** 議案第48号を採決いたします。

議案第48号につきましては、原案どおり決定することにご異議ございませんか。

(「ありません」の声あり)

**委員長** ご異議がないものと認め、議案第48号は原案どおり決定いたしました。

---

◎第64回松戸市文化祭について

**委員長** 次に、報告等です。

初めに、第64回松戸市文化祭についてをご報告願います。

**社会教育課長** 第64回の松戸市文化祭についてでございます。

次のページをめくっていただきますと、パンフレットがついてございます。

期日は、10月14日から11月23日までとなっております。

また、下のほうにありますのが、オープニングの一日文化祭を9月23日に市民会館で行います。これにつきましては、昨年は、震災の影響がございまして、12月にエンディングセレモニーという形で行いましたが、ことしは、またもとに戻しまして、9月に行います。

ページをめくっていただきまして、中身につきましては、ごらんのとおり、今年度もまた多彩に行われます。

なお、一番最後のページに地域文化祭が記載してございますが、これは、小金原、小金、常盤平、新松戸、各市民センターで実施される文化祭になりますけれども、このうち下から2番目の稔台文化祭につきましては、稔台市民センターの改修工事のため、文化祭は春先に実施しております。

教育委員の先生方につきましては、11月3日に行う視察についてご案内を差し上げますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上でございます。

**委員長** ありがとうございます。

松戸市文化祭についてのご報告ですが、何かご質問等がありますか。

**山田委員** 聞き漏らしていたらごめんなさい。新しく入った分野というのはないんですか、今年。

**社会教育課長** ことしはございません。

**山田委員** 減ったものもないですか。

**社会教育課長** 盆栽の会が人数が大分減ってきたため、今回は展示をされないということです。

各会とも、高齢化して、なかなか後を継いでくださる方が見つけにくいということで、文化団体連盟の皆様とも、どうしたらそういったことを解決していけるかということで、協議をしながら検討しているところでございます。

そのための試みの一つとして、文化団体連盟の発案で一日文化祭が開催されるようになりました。内容につきましては、市民会館のホールで、今回の文化祭に参加する団体、それぞれ時間割りしまして、すべての会の紹介と活動を一日で見られるという形、また別の部屋においては、お茶とか奇術とか、いろいろな種目の人たちがそれぞれに披露して、来た方に参加していただいて、一日で体験できるということをして、そういう中でまた新たに参加してもらえればというような試みが行われております。総じて会員の皆さんが嘆いているのは、この先文化の継承者に不安があるということでございますので、私どもといたしましても、文化団体連盟と共催で、市民の皆様に対して、研修会なりが開けないか、何か呼びかけができないかということで、今、お話し合いをさせていただいているところでございます。

**委員長** ありがとうございます。

いただいた文化祭の案内の一番最後、地域文化祭のところに、「盆栽・さつき展」が別建てになっていますね。それはそういう趣旨ですか。11月10日、11日だけやるということで、期間を継続してやるわけではない。今の櫻井課長のおっしゃった説明では、盆栽が今回はないとおっしゃった。だけれども、別建てであるというのは、そういう趣旨ですか。

**社会教育課長** 団体が複数ありまして、そのうち文化団体連盟に入っている団体が市民会館の会議室で開催していた展示会がなくなりました。

**委員長** 常盤平市民センターで行われるわけですね。

**社会教育課長** これはございます。

**瀧田委員** 市民会館の。

**山田委員** 市民会館の1階に会議室がある。

**社会教育課長** 立派な盆栽が飾ってありました。

**瀧田委員** 結構立派なのがあるような気はしましたけれども、やっぱりこういった傾向なのでしょうか、そうですか。

**山田委員** これも雑感ですけども、以前、瀧田先生から何かの折に、山田さんの関係で将棋の大会はやらないのか、市内で将棋の大会はやっていないのかという話をお聞きしたこと

があって、そういうこともあって、将棋は何かあるのかなと折に触れて気をつけてみるのですけれども、例えばここに囲碁の大会があるんですよ。

多分、団体がしっかりやっけていらっしゃるかどうかの差なのかもしれないんですけども、将棋に愛好者がいないわけでは恐らくない。一日新しい各分野で例えばヒップホップというのは、私は、余り得意ではないというか、もちろん自分では得意でないし、見るのも得意じゃないですけども、好きな方がいるのであれば、そういったこともどんどん表に出していくということは、いかがでしょうか。確かに、若い人に盆栽の後を継ぎなさいというと、なかなかできないかもしれませんが、新しい分野をどう促すか、文化団体連盟さんとともに、どこまで社会教育のほうで突っ込んでいいのかどうか、民間の自発的創意でやるものを行政で促すと、まずいでしょうか。

**社会教育課長** 指導できる方たちは、実際はいるはずなんですね。連盟の皆様も、すごく名人の方ばかり、もともとは趣味で始められたのが、ずっと30年以上続けられて、本当に講師として立派な方がたくさんいらっしゃいます。この方たちもぜひ伝えたいというお気持ちが非常に強くていらっしゃるので、今後、例えば公民館とか青少年会館等と連携をして、戦略をもって後の人につないでいくような、そういった講座の講師として活躍してもらおうとか、または文化団体連盟主催で初心者講習会等を開く際に、教育委員会が共催で行って、大勢の方が参加できるような形にしていくとか。私も公民館でいろいろな講座を担当してきたのですが、それこそ昭和50年代の初めには、成人学校として文化的な種目をたくさん市の主催で行いました。

それをきっかけに、グループが生まれて、ずっと継続して今に続いているという形になっているものがたくさんあるわけなんですけれども、それがある程度一段落して、カルチャーセンターその他が大変ふえてきて、いろいろ3学習の機会が民間のほうでも出てきたということ、あとこういったグループがかなり育って、自分たちで会員募集等もして進めているということがありましたので、こういった税金を使って行う教育委員会の講座として、何をすべきかといったときに、やはり社会的な課題、人権ですとか環境ですとか地域の課題ですとか、そういったものをうまくちりばめながら学習していく方向に持っていったんです。

ただ、最近、考えるんですが、民間に、そういった文化的なもの、ある程度趣味的なものを任せるといった場合に、そこで幾らやっても中々地域活動にならないようです。昔、社会教育課で行った成人学校なんかにつきましては、地域の人と人間関係をつくって、ずっとそのまま地域で広げてほしいよという気持ちでもって進めていきますから、それなりに自主グ

グループが誕生していったんですが、やはりカルチャーセンターなどで習った人たちは、自分が習えば、それで終わってしまうことが多く、そこでグループができて、それが松戸に定着して、ほかのところに広げるかという、中々そうはならないということがわかりました。

そういう意味では、それこそお金はかけないで、文化団体の方たちを講師にして、教育委員会共催という形でお互いにうまく協力しながら、趣味・文化的な活動についても、もっと目的を立てて、各地域ごとに何か開いていくということも必要なのかなというふうに、方向性として、今そんなことも考えています。

**山田委員** 何回もごめんなさい、松戸まつりで、これは商工会議所を中心に実行委員会があると思いますけれども、全然別だと思えるんですけども、2年ぐらいやったおやじバンドフェスティバルという、伊勢丹の前でやったイベントは今年しないんですね。結構、地元のお父さんたちが、昔、ギターを握ったことがある、昔、ドラムをたたいたことがある人たちが、夜とか土曜日とかに集まって練習して出ていたのが、ことし出られなくなったなんていう話がちらっと聞こえてきました。

その文化というのは何なのかということ、文化祭とうたったときに、いろんなカテゴリーがあると思うので、そこをどこまで柔軟にやっていくかということは、別におやじバンドをやったほうがいいかどうかは別にしまして、どうやったら柔軟にやれるか、かつ既存の団体とも高め合えるかというところで、旗を振るとするか、いろいろ柔軟に考えられるのではないかなというようにことを思いましたので、古いもので言えば、将棋がないということですし、新しいもので言えば、そういう音楽系でいくと、合唱等がありますけれども、あるいは小うたとか、そういう民謡とか、もう既にあるものもありますから、広く文化祭というのであれば、どういったことを含めて、文化なんだということをぜひ考えながら、常に考えながら、新しいものがあれば、何か門戸を開いていただければありがたいなというふうに思いました。

以上です。

**委員長** そうですね。いづこの団体も組織も、どうやって後継者を育てるかということに腐心していることは確かだと思います。

ただ、そういういながら、一方で、若者は若者で、極めて音楽に関心があって、自主的なそういうサークルや団体をつくってやっていることは事実です。それが、こういう文化祭の集いに一緒になっているかどうかは別としても、現実にあることは確かですね。

したがって、いつもここでも、話題になるように、成人式のときにあれだけ二十の人たちが団結していろんなことをやってくださる。そこに音楽も入れるということを伝統的にやっ

ていますから、あの人たちが、松戸市の音楽文化に何らかの形で主体的な役割を果たしてくれる、あるいは地域社会に役立つような何かをやってくれる、もう既にやっているところもあると思います、それをうまく生かせるといいですね。それで、その人たちが、こういう機会に、やっぱり何か発表の場を持つというのであれば、若い人たちの参加もかなり見込めそうな気がするんです。そんな思いがします。

最近では、音楽と体育、この2つが国民の文化にとってとても重要な潮流になっています。したがって、松戸市は、体育に力を入れると同時に芸術文化にも力を入れる。そんなことをお願いしておきます。

---

◎松戸市戸定歴史館企画展「徳川昭武のヨーロッパ体験」について

**委員長** それでは、報告等の第2ですが、「松戸市戸定歴史館企画展「徳川昭武のヨーロッパ体験」について」であります。ご報告をお願いします。

**戸定歴史館長** よろしくお願ひいたします。

それでは、ご説明いたします。

初めに、資料の確認をさせていただきます。ただいまの文化祭のパンフレットの次のページからになります。こちらが、企画展の開催要領と、別に2枚ほど配らせていただきました「ベルリンの響き」というのと「プレミアム将軍フレンチ」という資料がお手元のほうにあるかと思いますが、ご確認いただきたいと思います。

ことしの戸定歴史館の企画展でございますが、「徳川昭武のヨーロッパ体験」と題しまして、9月29日から11月25日まで、戸定歴史館の展示室で開催いたします。

徳川昭武は、幕末と明治に2度の留学経験を持ちまして、我が国の国際交流に大きな足跡を残しました。

少年期から最晩年に至る彼のヨーロッパ体験をご紹介しますとともに、これまで展示してきた資料に加えて、今回、初公開となります徳川将軍家所蔵の「徳川昭武帰国達書」なども展示いたします。

この展示会を核といたしまして、フランス文化に味覚から触れていただくイベントや、明治13年7月に昭武が訪問したことになみまして、戸定邸でベルリンフィルのメンバーによりますコンサートも行う予定でございます。

さらに、詳細につきましては、学芸員の斉藤補佐のほうからご説明いたします。

戸定歴史館長補佐 戸定歴史館の斉藤でございます。

この徳川昭武のヨーロッパ体験なんですけれども、今、概要は館長のほうから申し上げたとおりなんですけれども、今まで、パリ万博であるとパリ万博だけ、それから明治になってからも、フランス留学となるとそのことということで、当館の所蔵群資料を全部一堂に展覧するという事は、実はなかったわけです。今回は、そういったことで、一堂に見ていただく。そして、その生涯全体の流れの中で、どういった経験が蓄積されて、我々が何を学べるのかというようなことを紹介させていただくとともに、徳川将軍家、18代目ですが、徳川恒孝様という方が徳川記念財団の理事長をされております、今は個人所有という形で、原則非公開の資料なんですけれども、徳川宗家文書、こういった貴重な文書、これは一番根本になるような文書でございますけれども、こういったものも特別にご出品いただけるということになりましたので、これまでの資料に加えて、さらに初公開の資料で厚みを加えて、展覧会をさせていただきたいというふうに思っております。

同時に、この展覧会、展示室の中だけで確立するのではなくて、ここの資料から、一体、我々が何を学べて、そしてどのように新しい表現をしていくかということで、三位一体というような形で、「プレミアム将軍フレンチ」、これは、食文化の面、徳川昭武がヨーロッパ各国を旅行した際に、宮廷外交しましたので、当然、最高級の料理も味わっている。一方で、派遣した徳川将軍、お兄さんは慶応3年3月に、英国を皮切りとして、4回外国公使と厳しい外交交渉をするに際して、フランス料理のフルコースを食べて、胸襟を開いて、そして本音でぶつかり合う、こういったことの詳しい資料も残っておりますので、その辺にちなんで、その一部、全部をやると何百万の料理になってしまいますので、順を追って、主たる当時の味に迫ってみようというのがこのプレミアム将軍フレンチということになります。今回は、ウズラを使いたいということで、ウズラは、非常に高級食材でフランスから輸入するものを使いまして、なかなか安くはできないのでお値段が高目です。

それから、こちらの「ベルリンの響き」は、徳川昭武さんが、実は明治13年7月22日にベルリンに旅行なさって、1週間ほど滞在する、そういった足跡が残っております。そういったこともありますので、彼が行ったときのフランス語の日程を読んでおきますと、劇場に行った。現在のドイチェス・テアトルじゃないかなと思うんですけども、当時、実はオペラが主体そういったことで、最高の音楽に触れることにもなったと思います。

そこで、世界最高の演奏家の方とすばらしい日本の建物、こういった組み合わせというのは、なかなかこの戸定邸という建物がないとできないのではないかなというふうに思います

し、ベルリンフィル自体が、ヨーロッパコンサートということで、今年はウィーンの乗馬学校とやっておりました。そちらはフルオーケストラではもちろんありませんけれども、昭武さんの経験というものも出発点として新しい組み合わせのもとでやっていきたいというふう  
に思っております。

以上でございます。

**委員長** ありがとうございます。

何かご質問等がありますか。

**山田委員** 將軍フレンチのチラシ、リーフの一番下、チケット販売所、松戸探検隊ひみつ堂と  
いうのは、西口のあの原田米店さんの建物の所ですか。

**戸定歴史館長補佐** そうです。

**山田委員** どうかかわりでいらっしゃいますか。

**戸定歴史館長補佐** この事業は、基本的には松戸探検隊ひみつ堂さんと松戸市観光協会と、そ  
れから戸定歴史館、それぞれが力を合わせてやるという性格の企画になっています。主催と  
いう言い方をすると、松戸探検隊ひみつ堂さんなんですが、そこに時代考証とか場所の提供、  
これは戸定歴史館、それから観光協会のほうで側面支援していただく。

これは、最終的には、松戸ならではのオリジナルの名物料理、そういったものにまで育て  
上げられれば、ここからいろんな派生するものがきっとあるんじゃないかと思っております  
て、そういうところで観光協会さんにもかかわっていただく、そういう形です。

チケットを販売するのに関しては、ひみつ堂さんが定期的に毎日あけてもらって、そちら  
のほうでチケットの販売をしていただいております。

**山田委員** 市民だったり、学生さんとかも結構協力されているんですかね。

**戸定歴史館長補佐** ひみつ堂さんですか。学生さん、それから若いアーティストの方も一部参加  
されていますけれども、主力部隊といたしましては、松戸シティガイドで活動されている方、  
それから松戸市民劇団の劇団員の方、観光協会売店ボランティアの方、それらの中心となっ  
ている人物は石上瑠美子さんですから、石上瑠美子さんの非常に分厚い人脈といいますか、  
そういったものによってボランティア組織として支えられているということになるかと思  
います。

**山田委員** わかりました。ありがとうございます。

よい形でコラボレートできればいいなと思います。

**戸定歴史館長補佐** これも、我々だけで、戸定歴史館だけですとこう言ったことはできないと



思います。いろんな方、もちろん料理を担当してくださる方もボランティアで参加して下さって、ひみつ堂さんがチケットを販売、それから対人関係、お運びさん、そういう人手を出して下さる、そういうもろもろのことがないと、とても我々だけでは難しいと思います。

**委員長** おもしろい企画でいいですね。

ちなみに、ベルリンフィルのお二人が松戸市に来てくださるわけですね。

**戸定歴史館長補佐** そうです。

**瀧田委員** 今年聴かせていただきました。すばらしいシチュエーションの中での演奏ですよ。

もっと多くの方が楽しめればいいと思うんですけども。確か抽選だったと思いますが。

**戸定歴史館長補佐** たくさんの方が来るということを想定して、往復はがきの申し込みというわざとハードルの高いやり方をしたんですが、それでも800名の申し込みがあったんですね。そのうち70名が屋内で見られるんですよ。それ以外の方は、屋外、庭園にどうぞという形なんですけれども、一方で、毎回、今回もそうなんですけれども、今度は、物すごく来たときに、施設容量を超えた人が殺到したときに、安全管理がきちんとできるだろうかと、いろいろなケースを想定して、人手も多目に確保して、そして観覧計画、どこからどこまでは入っていただく、こうなったらこういうふうにしましょうということは考えておりましたけれども、そういうことも考えると、去年は比較的ゆったり目な感じでよかったかなと思いますけれども、でも多分、300人とか、こうなってくると、押すな押すなになっちゃうんじゃないかというやっぱりその恐怖感があります。

**瀧田委員** 確かに、抽せんではないというのはわかるんですけども、外れると行かないんでしょうかね。

**戸定歴史館長補佐** そこが、実は、一番最初、おとしやったときに600から700通ぐらいあったんです。往復はがきというある意味で手間のかかることをしてもそれだけ来てくれるということは、当日3倍ぐらいの人が押し寄せてもおかしくないなと思ひまして、恐れおののいていたら、そうでもなかったんです。

ただ、音響的に、音的に、余り遠く、例えば300の方が来たとする、300人、後ろの方はかなり聞きにくい。間近で聞くとすばらしい音響なんです、またコンサートホールと違って。ですから、そういった実際のある程度一流のプレーヤーの方で、実際に耳でそういうふさわしい音が聞けるといって、去年ぐらいがちょうどいいのかなというような感触は、今、持っているんですけども、やっぱりコンサートホールとはまた違いますので、端っこの席でも音響的にきちんと聞けるといっていいのではないです。

**瀧田委員** 戸定館ですごいことをしているんだなと行って初めてわかりました。

**戸定歴史館長補佐** ことは、民間のコンサートとも連携して、その日は、ベルリンフィルの方、戸定で、やっぱり近くで聞けない方には、森のホール21でコンサートがあります。そことも連携して一緒にやりましょう。また、逆に、ベルリンフィルは、ただ、うちに来ていただくのはボランティアのようなものなんですけど、ただボランティアで、毎年、来てくれるかという、それは2度目は厳しいですよ。だから、本格的なコンサートとうちでやる特徴あるコンサートで、本来の音楽家としての活動と国際交流、社会貢献というものがセットになると、非常に今後もいろんな方が来てくれる可能性はあるんじゃないかなというふうに思っていて、そういうことで、民間の方と協力して今回のコンサートもやらせていただく。

**委員長** 今回ベルリンフィルの方は、森のホールでも演奏されるんですか。

**戸定歴史館長補佐** まず、戸定邸で、こちらのチラシにありますように、2名の方、リュウディガー・リバーマンさんとワルター・ケスナーさんが、バイオリン、ビオラの演奏をしてくださる、これが1時から1時半まで、それから一方でこの森のホール21、夜の部、これは民間の方が主催なんですけれども、文化振興財団と共催をとっていただいて、ラハナートリオというトリオで今度はピアノを加える。

**委員長** いいことですね。ラハナートリオの3人のメンバーのうちの、杉山紀子さんとケスナーはご夫婦でいらっしゃるのかな。

**戸定歴史館長補佐** ご夫婦です。

**委員長** ドイツのミュンスター生まれというので気になりました。

**山田委員** この企画展そのものにどれぐらい多く来ていただけるか、大変、興味深い内容で、幕末から明治の初めの大変、歴史物とすると人気のある一つの時代だと思いますし、PRというものは、主にホームページとか広報とか……。

**戸定歴史館長補佐** ホームページ、広報、マスコミなんですけれども、広報まつどに、9月15日に掲載する予定なんですけれども、そこでまず松戸記者クラブさんのほうに最初に情報提供させていただいた後は、恐らくなんですけれども、またテレビ局が来て取材してくれるような、この資料なんかはそうなんですけれども、そういうスペシャル資料を配りましたけれども、そういうところでPRを図っていきいたいなと思っております。

**山田委員** よろしくお願ひします。

**委員長** よろしゅうございますか。

(「いいです」の声あり)

---

◎松戸市立博物館企画展「東日本の古墳と渡来文化」について

**委員長** それでは、次の報告事項に移ります。企画展「東日本の古墳と渡来文化」の開催について、お願いします。

**博物館次長** 博物館次長の松本です。よろしくお願いします。

それでは、博物館主催の平成24年度の企画展「東日本の古墳と渡来文化」、副題といたしまして、「海を越える人とモノ」の開催のご案内について申し上げます。

開催期間につきましては、平成24年10月6日の土曜日から11月25日の日曜日まで44日の開催日数でございます。

会場は松戸市立博物館の企画展示室で開催いたします。

展示のほかに、関連行事といたしまして、記念講演会、学芸員の講演会、シンポジウム、展示解説会の開催を記載のとおり予定してございます。

なお、ここに記載はございませんが、10月6日、開催初日でございますが、オープニングセレモニーを予定しております。その後、引き続き内覧会を考えております。セレモニーにつきましては、主催者側といたしまして、市長を初め教育長、教育委員の皆様方、それから生涯学習本部長、学校教育担当部長も出席予定でございます。

博物館エントランスにて9時半から挙行する予定ですので、よろしくお願いいたします。

次に、開催内容につきましては、次ページ、開催要領をお開きください。

上に、会期、会場、主催、その下に開催趣旨と書かせていただきましたが、開催内容につきまして、若干、概略ですが、ご案内させていただきます。

古墳時代の日本列島では、5世紀以降ですが、東アジアの先進的な技術・文化が伝わる中で急速に発展いたしました。その中で、渡来人が果たした役割は大きかったと言われております。

今回の展示では、松戸市から出土いたしました遺物を手がかりにいたしまして、千葉県内及び東日本各地で発見されました渡来系遺物を取り上げて、東日本から見た古墳時代像とその特質を探ります。

展示の構成につきましては、記載のとおりでございますが、古墳時代の東日本では、どのような歴史が展開したのか、各地で見つかる渡来系遺物は何を物語るのか、海を越えて、往来した人々の足跡をたどりながら、東日本と朝鮮半島をつなぐ壮大な交流に迫りたいと考え

ております。

次ページをお開きください。右側でございます。

関連行事でございますが、記念講演会につきましては、11月3日の土曜日、午後1時から会場を当館の講堂で行います。

次のシンポジウムでございますが、11月17日の土曜日、こちらは、会場を森のホール、定員400名の小ホールを使いまして、記載の講師をお招きして開催する予定でございます。

また、当館学芸員による講演会、展示解説会を記載のとおりに行います。

さらに、展示関連企画といたしましては、お子様や家族向けの企画といたしまして、ここに書いてある「ワークシートにトライ!」「しおりにトライ!」、次のページの「かんむりにトライ!」といろいろな形でもって、子供から大人まで楽しめるプログラムを用意してございます。

市民の皆様へのご案内につきましては、既に博物館のホームページ等でご案内いたしておりますが、さらにポスター、チラシを作成し、広報してまいります。広報まつどへの掲載は10月1日号を予定しております。

展示資料につきましては、展示図録を作成いたします。会場にて、頒布をいつもどおりいたします。

お手元にチラシをカラー刷りで、今、配付させていただきましたが、そちらに主な資料を写真で掲載してございます。ごらんになっていただきたいと存じます。

なお、観覧料につきましては、今回、企画展でございますので、300円をちょうだいいたします。常設展と共通券で500円となっております。もちろん、小・中学生につきましては無料でございます。

以上、博物館、企画展開催のご案内です。

**委員長** ありがとうございます。

ことしの文化祭の時期は忙しいですね。両方興味がありますね。

**山田委員** シンポジウムは例年どれぐらい来場者が来られますか。

**博物館次長** 当館の学芸員が同席しておりますので、学芸員よりお答えさせていただきます。

**博物館主事** シンポジウムについては、開催するのは今回が初めてです。

**山田委員** シンポジウムは初めて、講演会は……。

**博物館主事** 講演会は、3年前ほどに、一回、渡来人をテーマにした講演会したときに、100名ほど応募がございまして、そこは館内で講演会を行いました。

**山田委員** この当館講堂でというこれと同じスタイルですか。

**博物館主事** ええ、ただし、当館講堂の場合は、80名が定員ですので、席がございませんので、今回、関心の高いテーマですので、思い切ってシンポジウムという形をとらせていただきました。より多くの入場者数と、さらに多くの講師の方々が、松戸市の遺跡で発見された資料を一つの起点として、東日本の渡来文化をとらえてみよう、さらにそれを日本列島全体、さらにはアジア全体の中でどういう意味があったのかと、そういうテーマのもとに行い、東アジアの歴史そのものを見直してみようというのが今回のテーマになっております。松戸から、地域博物館から情報を発信して、日本の歴史を見直す、さらにアジアの歴史をもとらえ直す、そこまでやっております。

**山田委員** わかりました。昨年、企画展自体にはお伺いしたいんですが、その講演会等は拝見したことがなかったので、それをやったのは3年前ですか。

**博物館主事** 講演会は、企画展ごとに、毎回、行っています。

**山田委員** 毎回やっていますよね。

キャパシティーですね、これが。

**博物館主事** そうですね、それが一番の問題です。

**山田委員** 時宜を得たというか、アジアの平和を考える、今回、それは関係ないですけども、できるだけ多くの方に聞いていただけるようなPRが行き届けばいいなと思って、400名ですよね。

**川村委員** 大変すばらしい企画展でございますが、小学生、中学生は毎年どのぐらい参加していますか。

それから、ぜひ、これは子供たちに見ていただきたいと思いますので、学校関係へのPR活動はどのようになさっていますか。

**博物館次長** 企画展は、毎年、テーマが変わりまして、例年ですと、昨年ですと、松戸の美術百年史ということで美術館準備室、その前は博物館主催の湯浅喜代治考古コレクション、今回は渡来系の遺物のテーマですので、どのぐらい来場していただけるかにつきましては、過去の統計もとっておりませんし、今回もどうやるか、予測がつかないんですが、例年ですと、子供たちにターゲットを絞った企画というのはしていません。一般向けの企画展というイメージで今回は、特に、先ほどもご説明いたしました、子供から大人まで楽しめる関連企画を用意してございまして、できるだけ学校関係の皆様方にもPRさせていただきたいと思っております。

PRの仕方につきましては、校長会、教頭会を通じていつもご案内差し上げております。

**川村委員** できれば、各学校へチラシを配布できるといいですね。

**博物館次長** はい。

**委員長** そうですね。

ほかに何かございますか。

関連行事のところで、企画展記念講演会でお話しなさるこの専修大学の講師の方、何とお読みしたらいいんですか。

**博物館主事** 失礼いたしました。こちらは「はぶたよしゆき」先生という古墳時代研究の第一人者であると同時に、特に日本と韓国の古墳時代、韓国だと三国時代ですけれども、そういった日韓交渉に関する研究の第一人者でもあります。

**委員長** 読めない字で失礼しました。

**博物館主事** 失礼いたしました。

**山田委員** すみません、そうすると、この先生に大変興味を持っていらっしゃる関連の方々わざわざ松戸に来られるということもあるわけですね。

**博物館主事** そうですね。ファンという言い方は悪いんですけれども、この先生自身、多くのご講演をなさっている方でして、この先生がコーディネーターとなり、各分野でパネラーを挙げていますが酒井清治先生は、古代史研究をされている方です、特に東日本古代史に関する研究を行っている先生です。

白井久美子先生は、千葉県の教育振興財団に属している先生なんですけれども、この先生は、特に、千葉県、房総半島における古墳時代を研究されている方です。

もう一人、高田貫太先生というのは、これは少し若い先生なんですけれども、この先生は、国立歴史民俗博物館の准教授でして、特に韓国で学位をとられた先生です。ですから、そういう日朝交渉に関する研究で特に第一線で活躍されている方になります。

**委員長** 先ほども説明がありましたように、松戸から、東日本の古墳と渡来文化について発信しようということをおっしゃったから、やはりそれぞれ第一線で活躍されている先生方が来られるんでしょうね。

今、パネラーとおっしゃったけれども、正式にはパネリストのほうが表現としてはいいですよ。

さて、第3の報告は以上ですが、何かございますか。

いろんな企画を立てていただいて、ありがとうございます、期待しております。どうもあ

りがとうございました。

---

◎その他

**委員長** 次に、議題としては、本日は以上ですが、その次はその他に移ります。

事務局から松戸市における放射能対策についてご報告願います。

**教育総務課長** 教育総務課でございます。よろしくお願い申し上げます。

前回の教育委員会議のときにご報告を申し上げましたが、夏場に通学路の測定をさせていただきたいということで、ご報告を申し上げまして、その後、7月30日から8月23日までの間に測定を行いましたので、本日、詳細なデータはご報告できないんですけれども、失礼ながら口頭で、速報というような形で、まずご一報だけの報告をすべきと思ひまして、お伺いを本日いたしております。

まず、測定期間は、先ほど言いましたように、7月30日から8月23日まで行いまして、測定の要員は、この建物におります教育委員会の事務局の職員が18名の態勢で行っております。

測定箇所は、小学校周辺の主要な通学路ということで、結果としては269地点の調査をしております。

測定方法は、道路面から5センチの高さで放射線量を測定するというので、前回と前々回を合わせまして、今までに3回調査しておりますけれども、全く同じ方法で行っております。

結果でございますが、その269カ所のうち、数値が改善した箇所、放射線量が下がった箇所でございますけれども、244カ所ということで、全体の9割程度はいい結果が出たかなというところでございますが、逆に24カ所は、数値が悪化といえますか、放射線量が上がってしまったというところもございまして、この辺の分析みたいなものは本日できないんですけれども、その概要としては、そのような結果でございました。

また、改めて取りまとめした結果をご報告申し上げます。

公表につきましては、これも、前々回と同じように、各小学校の通学路の地図上に測定の地点と過去の調査の数値もあわせまして図示したものをホームページに載せて、お知らせしてまいりたいと思っております。

今のところ色々な作業がございまして、10月頃には公表したいと考えております。今後の対応でございますけれども、当分の間は、測定は継続せざるを得ないだろうというふうに

思っております、次回は、本年の秋から冬ごろ、11月ごろかなというふうに考えてございます。

甚だ簡単でございますけれども、以上、速報というような形でご報告でございます。ありがとうございます。

**委員長** ありがとうございます。

何かご質問はありますか。

**山田委員** 確認ですけれども、通学路の測定を行ったということで、夏休みの間に行われた除染作業について、もしわかれば教えてください。そのほか、校庭等をなさったんですね。

**委員長** 今の測定の報告は、測定したというだけですね。通学路はそのまま……。

**教育総務課長** 学校の敷地外の通学路のご報告でございます。

**委員長** 除染については、室長からお願いします。

**企画管理室長** 除染については小・中学校全64校、日にちまでは正確に覚えておりませんが、全校完了しております。

**山田委員** 完了した時点で、当然、測定は、前後の測定はなさっていらっしゃるのですね。

**企画管理室長** 今まで主に児童・生徒が活動するグラウンド部分を除染いたしました。今後は、それ以外の部分、例えば体育館の裏とかふだん通らない部分についても、進めていく予定です。

**山田委員** それは、今後、進めていくと、教育委員会のほうで進めていくのですね。

**企画管理室長** 担当課は教育施設課になります。

**山田委員** ポイント、ポイントで、逆に雨水が通るところなんかは、逆に非常に高くなる。ふだん行かないところなんで、余り神経質に考えるべきではないと思いますが手順とすると、今後どう進められるのですか。

**企画管理室長** グラウンド部分を終わらせて、今度は校地内に範囲を広げるということです。

**委員長** 一般家庭については、市長部局でやっておられるので、それとは別に教育委員会としては、学校施設を中心にやったということですね。

これは、1回、2回で終わるのではなく継続して行う作業ですので、じっくりと取り組んでいきたいと思っております。

**教育長** この各学校ごとのものは、地図に落として、ホームページで全部それぞれ公開しています。グラウンドについては、0.23マイクロシーベルト以下になっています。

あと、室長が申し上げたとおり、学校自身の努力で大分減ったというところもあります。



前お見せした赤丸が大分なくなりました。

**委員長** それはうれしいことですね。

ありがとうございました。

次に、音楽コンクール、吹奏楽コンクール及び中学校の総合体育大会の結果についてのご報告です。

お願いします。

**学校教育担当部長** では、ご報告申し上げます。

初めに、暑い中、関係の委員の皆さんには、市内大会、県大会のほうにお越しいただきまして、本当に応援のほう、ありがとうございました。この場をかりて、改めてお礼申し上げます。

それでは、音楽関係で、初めに第79回NHK全国学校音楽コンクールについてご報告申し上げます。

これは、千葉県大会が行われまして、高等学校の部、中学校の部、それぞれで市立松戸高等学校合唱部と第一中学校合唱部が、第1位、金賞を受賞しております。それで、この後、関東甲信越大会のほうへ出場という、中・高アベックの大会参加という形になっております、こういう結果でございます。特に、市立松戸高等学校につきましては、この合唱部ができて2年目というところでの快挙ということで、改めてご報告させていただきたいと思っております。

関東大会、関東甲信越大会については、そこに書かれておりますように、9月8日の土曜日、さいたま市大宮ソニックシティホールで行われます。

これ以前に、8月20日、28日とNHKのFMの千葉放送において、子供たちの活動をインタビューされた模様が放送されております。それで、今回、この関東甲信越大会については、9月30日の日曜日、NHKのEテレビで、この大会の模様を録画放送予定という形になっておりますのでご紹介申し上げます。9月30日、日曜日、午後2時半からのテレビ放送という予定になっておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

これは合唱関係のご報告でございます。

続きまして、第18回東関東吹奏楽コンクールについて申し上げます。

ここについては、中学校の部門だけの第一中学校、第三中学校、和名ヶ谷中学校の3校が、千葉県の代表としてこの東関東吹奏楽コンクールのほうに出場が決定しているということをご紹介申し上げます。

特に、和名ヶ谷中学校につきましては、そこに記載のとおり、ヤマハ賞というのをとって

おりまして、この賞をいただくと、全国大会のほうにはもうほぼ行くのではないかということをおっしゃっております。この東関東吹奏楽のほうからは、上位3校が全国大会のほうに行くという予定されております。ですから、今、和名ヶ谷中学校は、その1校にほぼ選ばれているのではないかという、ヤマハ賞をとっている団体、言われているところがございます。

ただ、油断は禁物で、この後、一生懸命、今、練習に励んでいるところなんです、昨年度まで全国大会に3回ほど連続で臨みました四中については、規定により、ことしは出場ができないということで、徳島県鳴門市のほうで行われます記念コンサートがあるんです、そういう学校さんを対象に特別に演奏会というのがございまして、そちらのほうに参加する形になっております。

以上でございます。

続きまして、先ほどご案内しました、委員さんたちに応援いただきました体育関係のことについてご報告申し上げます。

ここに記載のとおり、まず1枚目が、県大会の様子が書かれておりますが、15種目541名が参加しております。

続きまして、関東大会には、2枚目になりますが、7種目101名が参加しています。ここに、関係者以外に、去年は88名でしたので、13名ほどふえた形で参加しております。

その一番下のところに、全国大会21名という記載があると思うんですが、その部分については、訂正いただきたいんですが、22名となっております。バドミントンの部で1名ふえていまして、8名で22名という形になっております。

全国大会について申し上げますと、全国大会は、4種目、陸上、水泳、卓球、バドミントンで参加がございまして、顕著な結果を申し上げますと、昨年度が全国で2位に入りました第一中学校の4掛ける100メートルが、ことしも参加ができて、関東大会で優勝できて、記録も徐々に上がっていて、去年の記録を上回っていて、またことしも優勝を期待されていたんですが、8月22日に決勝が行われまして、テレビ放映もされまして、残念でしたけれども、見事に第3位という結果に終わっております。また、2人ほど去年のメンバーが残った中での第3位でしたが、ことしも、また来年度に引き継ぐ2名ほど残っておりますので、来年度も期待しているところでございます。

また、この総合体育大会とは別に行われました弓道大会というのが、これは全国中学生弓道大会というのがあるんですが、ここには、団体男子で第六中学校が参加しまして、これは見事優勝をなし遂げております。全国で第1位ということ、個人では、栗ヶ沢中学校の2年

生の女子、黒岩さんという方が個人で優勝しております。弓道関係については、全国を制覇したということになります。

以上でございます。本当にいろいろ応援、ありがとうございました。

**委員長** ありがとうございました。

中・高、それぞれ頑張っている、特に市立松戸高校の合唱は創部2年で、関東甲信越大会に出場できるレベルになった。これはすごいですね。

**山田委員** 一中の先生が行かれたのでしたね。

**教育長** そうです。

**山田委員** 今年も一中が出ているのがすごい。

**教育長** 一中も、中学も出ています。

**山田委員** 先生が移られた。

**委員長** それはやっぱり指導力があるということですね。

**学校教育担当部長** 経験のある指導者が行っておりますので、今までの伝統は受け継いで、そのまま。

**山田委員** そうですか。

**教育長** あと合唱連盟というのもあるんですけども、NHKと2つ、それぞれNHKと合唱連盟は朝日新聞系なんですけれども、そっちのほうでも市立松戸高校は関東大会に出るようになりました。

**山田委員** あと、弓道は先生がいらっしゃるんですよ。

**教育長** これは外部コーチですね。

**山田委員** 逆に言うと、その方は長く見ていただけそうですね。

**教育長** そうですね、顧問は顧問でいます。

**委員長** 弓道は、オリンピックの種目にはないですけども、これは和弓のほうでしょうか。

**教育長** そうです。

**委員長** オリンピック種目ではないけれども、全国弓道大会で優勝したというのはすごいですね。

**山田委員** 運動公園に弓道場がある。

**瀧田委員** 学校にもあるんでしょう。

**委員長** 毎年ご報告いただいておりますが、そういうすばらしい成果報告を聞くのはうれしいことです。指導されている先生方、コーチの皆さんのおかげですから、本当にありがたいと思

っています。

特にスポーツ関係では、これを高校、大学、松戸市全体がいい形で連携していきたいですね、音楽についても同じですね。

**山田委員** 何か記者の人に聞いたら演劇がすごいそうです。

**委員長** 馬橋高校……。

**山田委員** どう採点されるのか、私はわからないんですけども、それは時期がもうちょっと後なんですか。

**教育長** 秋です。

**山田委員** そういう何かコンクールか何か……。

**教育長** あります、演劇、全国大会。

**山田委員** 何か市内からは3校ぐらい……。

**教育長** 馬橋と松高も受かったんじゃないですか。

**山田委員** そういう文化的な種をぜひ育てていただきたいと思います。

**委員長** よろしゅうございますか。

それでは、次回の教育委員会の日程について、事務局、お願いします。

**企画管理室長** 平成24年10月定例会でございますが、平成24年10月4日の木曜日、午後2時から、こちらの5階会議室で開催されてはいかがでしょうか。

**委員長** 次回教育委員会会議は、10月4日2時からという予定ですが、皆さん、よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

**委員長** 確認します。次回教育委員会会議は、平成24年10月4日、木曜日、午後2時から教育委員会5階会議室にて開催いたします。

---

◎閉 会

**委員長** 以上をもちまして、平成24年9月定例教育委員会会議を閉会いたします。

どうもありがとうございました。

閉会 午後 3時20分

この会議録の記載が真正であることを認め署名する。

松戸市教育委員会委員長

松戸市教育委員会委員